

## ワカヤマソウリユウ編

## ―モササウルス以外の脊椎動物②―

前回は、有田川町で見つかった中生代の背骨のある動物（脊椎動物）について、ウミガメの紹介をしました。今回は魚類です。

有田川町からは、サメの歯の化石も見つかっています。サメはエイなどとともに軟骨魚類と呼ばれ、骨格が軟らかい骨でできています。サバや太刀魚のような一般的な魚は硬骨魚類で、こちらは化石にも残りやすいのですが、サメのような軟骨魚類は骨が残らず、もっぱら歯だけが見つかります。

そして、サメの歯は生きているうちにどんどん生え変わるため、たくさん歯が獲物を食べているときなどに海底に落ちていきます。

## ●白亜紀のサメ化石

有田川町の白亜紀の地層からは、これまでに数種類のサメの歯の化石が見つかっています。ここではその内の2種類を紹介します。1種類目は、4〜6mくらいの大きさになるカグラザメ類の化石です。現生のカグラザメは、水深2000mを超える深海に潜って生活して

います。そのため、どのような生活をしているかは詳しく分かっていませんが、その姿は白亜紀からあまり変化していないのではないかと考えられています。

もう一つはツノザメです。ワカヤマソウリユウの化石の周りからは、たくさんツノザメ類の歯が見つかりました。ツノザメは、死んで海底に沈んできたワカヤマソウリユウの肉を食べており、食べている際に落ちた歯がその場で化石になって一緒に見つかったのではないかと考えられています。

このツノザメ類は、歯の大きさから推測すると、1m〜1m50cmくらいの大きさだったと考えられています。現生のツノザメは、二つの背びれのそれぞれにトゲをつけて制作しています（復元模型も背びれにトゲをつけて制作しています（復元模型は地域交流センター（ALEC）において展示しています）。



カグラザメ類の歯の化石



カグラザメのイメージ図（©Takumi）

写真提供：和歌山県立自然博物館



ツノザメ類の復元模型